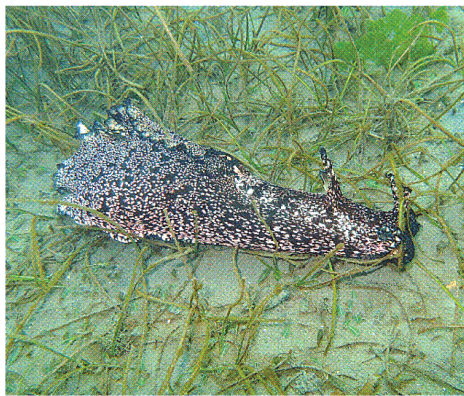
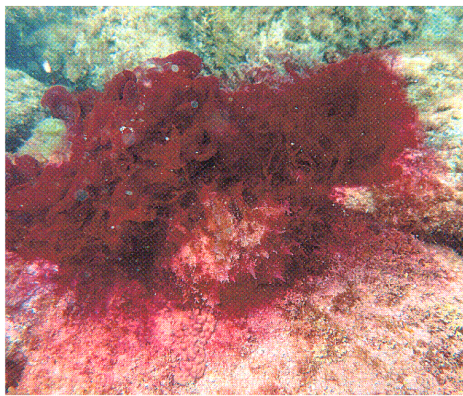




⑤アメフラシの仲間、タツナミガイが紫汁を出したところ⑥海藻の間を動くアメフラシ

アメフラシ

学名 *Aplysia kurodai*

- 分類 アメフラシ目アメフラシ上科アメフラシ科アメフラシ属
- 大きさ 30~40cm
- 分布 西太平洋
- 食作物 アオサやソゾなどの海藻類
- 特徴 春先の磯でよく見られ、紫色の汁を出すことで知られる。耳のような触角と丸々とした体を持ち、そのすがたかたちや海藻を食い荒らすことから英語では「Sea hare(海のウサギ)」と呼ばれる。

日本にいるアメフラシ類のうち、ワカメなどの有用海藻を食害する可能性があるものは5種類ほどで、種類により食べる海藻が異なる。

日本にいるアメフラシ類のうち、ワカメなどの有用海藻を食害する可能性があるものは5種類ほどで、種類により食べる海藻が異なる。

万能な紫の汁を出す

磯で、うっかり踏みつけた黒い生き物から紫色の汁が出るのを見たことがある人もいるでしょう。その生き物こそアメフラシです。アメフラシが出す紫色の汁(紫汁)には、さまざまな役割があります。分かりやすいのはタコの墨と同じ、目くらましの役割。紫汁には外敵が嫌がる成分が含まれていて、遠ざける役割もあります。

一方、全く逆の、外敵の食欲をそそる成分も含まれます。動きの遅いアメフラシは、敵に紫汁を餌だと勘違いさせて逃げる時間稼ぎをします。近くにいる仲間たちに敵を知らせる警告の役割もあり、紫汁を感じ取った仲間はその場から逃げていきます。

万能な紫汁は、主にアメフラシの餌である海藻の成分から作り出されています。水槽内のアメフラシがいつも海藻を食べているのは、おなかをいっぱいにするためだけではなく、紫汁をつくるためでもあるのです。

アメフラシの仲間は古くからたくさんの人の興味をひいてきました。ある時は大発生してワカメなどの有用海藻を食べつくす悪者として。ある時はノーベル賞をもたらした実験動物として。そして食卓に上る食材として。良くも悪くもさまざまな形で人間と関わってきたことはあまり知られていません。

水族館のアメフラシは人気生き物とはいきにくいですが、こんなにすごい生き物だと知ると、見方が変わってくるかもしれませんね。(展示課魚類展示係・西田和紀)

おもしろ生き物図鑑
かこしま水族館から